

平成 30 年度 第4学年 授業改善推進プラン

	課題(児童の実態、学習状況、指導の実態)	改善プラン(課題の改善プラン、具体的手立て)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習に意欲的である。児童によって定着率に差がある。 物語文や説明文を読み、内容を捉える力が児童によって差がある。 言葉を活用して、書いたり作ったりする活動に積極的である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した漢字を活用する機会を設定する。 物語文、説明文を読み取る際の指導事項を系統立てて指導していく。 学習した指導事項を、活用する機会を意識して設ける。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 各授業の課題に対して、予想したり考察したりする際に、自分の考えをもつことができる。 単元の中で学習したことを繋げて、自分の考えに生かすことができる。 グラフや写真から読み取ったことから、自分の考えをもつことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童から出てきた疑問を生かし、問題解決的に学習を進めて行く。 その時間で身に付けさせたい見方や気付かせたい部分に絞った、グラフや写真の提示の仕方をし、全員が同じ視点で読み取り、そこから考えを深めることができるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別のコースによって実態は異なるが、すすんで「問い」に関わり、問題解決学習を楽しんでいますで取り組む児童が多い。 自分の考えの根拠を図・式・言葉・操作などで表し、それらを用いて説明できるようになってきている。 自分の考えは伝えられるが相手の考えに関わり合い、考えや方法を「共有」する場面には課題があり、話し合いスキルを身につけるなど充実させるための手立てが必要である。 <ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習にはすすんで取り組むが、基礎的な技能の習熟が課題である児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えたくなるよう課題や導入場面を工夫し(ICT教材等や具体物も効果的に活用)、児童が問題に関わり「問い」をもてるようにする。 児童が互いの解決方法や考えにすすんで関わり「共有」できるよう、教師は児童から「引き出した言葉」を明確にし、発問を工夫して話し合い場面の充実を図る。 どの児童も主体的・対話的に学習に取り組めるよう課題・教材・導入を工夫し、解決に必要な言葉を共有し、どの児童も発言できる機会がもてるよう授業スタイルを工夫する。 考えや方法もかけるよう「考えがみえる」ノート指導を徹底する。また、よいノート記録についても全体で共有していけるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの児童が活動に興味関心をもって、主体的に取り組むことができる。 問題に対して予想を立てることはできるが、その根拠を絵や図、言葉などで説明できる児童は少ない。 結果から考察まで区別して考えられる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な題材を取り扱い、より主体的に取り組めるようにする。また、普段の生活の中で意識できるように、身の回りの事象と関連づけて指導をすすめる。 簡単な表現方法を伝え、児童が使えるように指導する。また話形を提示して、言葉での説明を補う。 結果と考察を区別して指導する。また考察を考える道筋を示したり、ヒントを与えたりすることで体感させる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 高学年にむけて響きのある歌声で歌えるようになってきたが、声量が少し小さくなってしまっている児童もいる。 楽器を演奏することが好きで、音を合わせて楽しく演奏することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発声練習でいろいろな声の出し方を体験させたり、明るくパワーをもって歌いたくなる楽曲を扱ったりして、自分たちの歌声に自信をもたせていく。 自分たちで工夫して合奏し、互いに聴き合い、さらに良い合奏を追求していく体験をさせていく。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 造形活動にはとても意欲的である。しかし、他人の表現に関心が薄い。 片付け・挨拶はよくできる。 自分なりのアイデアを形にすることができている。 少しおとなしい子が多く、また、排他的な態度を出す様子も見られるため、みんなで相談しながらつくりあげることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、片付け挨拶の徹底による、「自分で物作りの環境を作っていく力」を育てる。 相談してつくりたり鑑賞したりする機会を増やし、お互いの感じ方や考え方が違うものであると経験を促す。また、児童が「チームの個性を生かしながらよりよい表現を行うにはどうしたよいか」、思考を深められるように声かけを行う。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことに意欲的に取り組んでいる。 勝敗や自分のプレーを意識する児童が多い。チームとしての役割や、相手を讃える心を養わせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分ができるようになったことを実感し、運動技術の高まりを楽しむことができるようにする。 勝敗のみでなく、それまでの過程や、友達と協力して取り組むことの良さを実感できるゲームやルールを設定する。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの課題について自分の考えをもつことができる。しかし、自分の考えを素直に表現せず、模範的な回答を発言する児童が多い。 自分の考えを言葉にして、友達に伝えることができる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自由に意見を考えられるような、揺さぶりのある発問を取り入れるようにする。 言葉で話すだけでなく、書いて表現するなど、様々な表現方法で児童の考えを引き出せるようにする。